

中晩生タマネギでは収穫2週間前時点で葉の50%以上が残っていれば収量は低下しない					
[要約] 5月下旬に収穫する中晩生タマネギでは、収穫40日前および1か月前の場合は全葉の25%まで、2週間前の場合は50%まで葉を除去しても収量は低下しない					
上場営農センター・研究部 畜産・果樹研究担当				連絡先	0955-82-1930 uwabaeinouseenta@pref.saga.lg.jp
部会名	上場営農	専門	病害虫	対象	タマネギ

#### [背景・ねらい]

中晩生タマネギではべと病やボトリチス葉枯症の被害が問題になっている。罹病葉は黄化し、やがて枯死するが、発生時期や被害程度が収量にどの程度影響するのかについては不明である。

そこで、これらの病害による被害を想定して葉を除去もしくは切除する方法で、葉の除去(切除)時期と残存程度が収量に及ぼす影響を解析する。

#### [成果の内容・特徴]

1. 収穫1か月前に全葉の50%以上を除去すると肥大は著しく抑制される。収穫2週間前の場合には葉の除去が肥大に及ぼす影響は小さい(図1)。
2. 収穫40日前および1か月前では全葉の25%まで葉を除去しても収量は低下しない(図2, 図3)。
3. 収穫2週間前では全葉の50%まで葉を除去しても収量は低下しない(図2, 3)。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 中晩生タマネギの収量を低下させないための防除計画の指標として活用できる。
2. 実際に発病して葉が枯死した場合の収量および貯蔵腐敗に及ぼす影響まで含めて解析する必要がある。

[具体的なデータ]

1) 葉を除去した場合

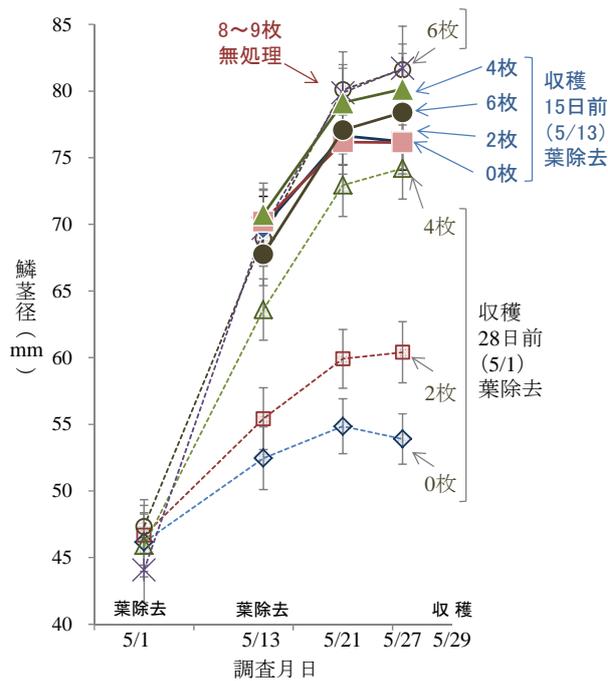


図1 収穫15日前(5月中旬)以降であればタマネギ葉数の違いが鱗茎肥大に及ぼす影響は小さい

※ 処理方法: 収穫28日前(2015年5月1日)および同15日前(5月14日)に中心からの葉数が0枚, 2枚, 4枚, 6枚, 8~9枚(無処理)になるように除去. 収穫日: 5月29日  
 ※ 白抜きは収穫28日前に除去したものを, それ以外は収穫15日前に除去したものを示す.  
 ※ 図中の数値は残存葉数を示す.  
 ※ 各プロットのバーは95%信頼区間.

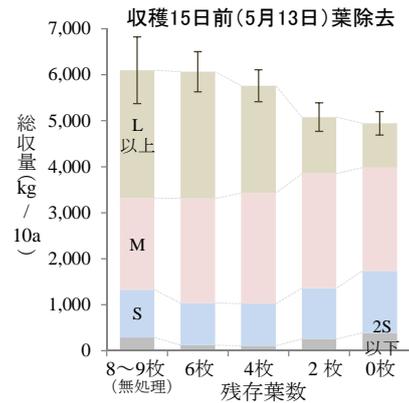
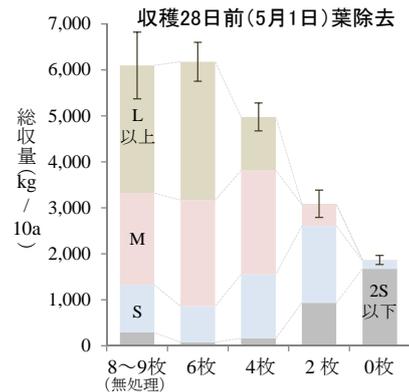


図2 収穫15日前(5月中旬)以降であればタマネギ葉数の違いが収量に及ぼす影響は小さい  
 ※ 処理方法および収穫日は図1の脚注を参照.  
 ※ 図中の英文字はタマネギの規格を示す.  
 ※ 各カラムのバーは95%信頼区間.

2) 葉を切除した場合

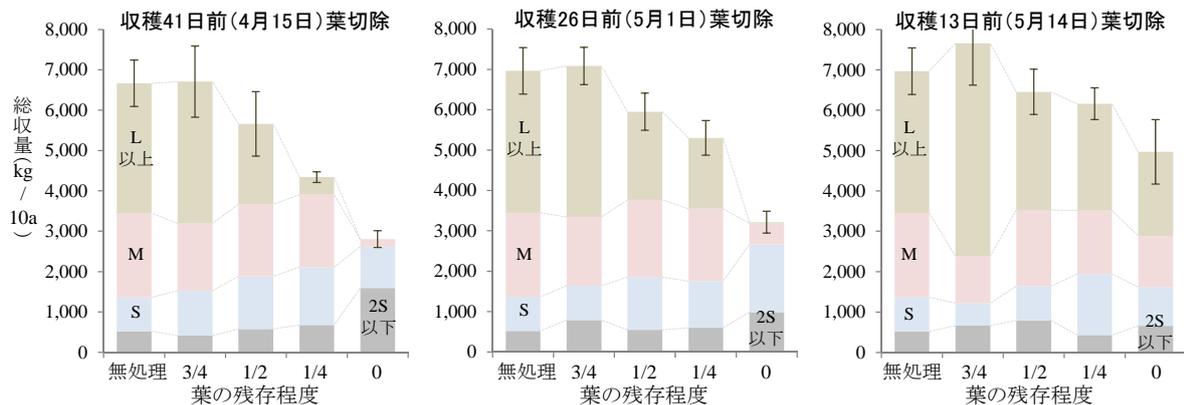


図3 収穫13日前(5月中旬)以降であればタマネギ葉の残存程度の違いが収量に及ぼす影響は小さい

※ 処理方法: 収穫41日前(2014年4月15日), 同26日前(5月1日), 同13日前(5月14日)に先端から4分の1, 2分の1, 4分の3, 4分の4(全葉)の長さで切除. 収穫日: 5月27日  
 ※ 図中の英文字はタマネギの規格を示す. 各カラムのバーは95%信頼区間.

[その他]

研究課題名: 新農薬効果薬害受託試験  
 予算区分: 県単  
 研究期間: 2014年度~2015年度  
 研究担当者: 正司和之, 中山伸一, 古川智博, 松尾洋一